

特別の教育課程の編成方針

1 特別の教育課程の内容

(1) 教科、時数等

小学校第1、第2学年において「外国語活動」を行う。

- ・第1学年は生活科を34時間削減し、「外国語活動」を行う。
- ・第2学年は生活科を35時間削減し、「外国語活動」を行う。
- ・全学年の「外国語活動」及び「外国語科」の名称を「英語科」とする。

(2) 実施期間

令和7年4月1日～

2 特別の教育課程を編成する必要性

(1) 印西市の取組から

印西市においては、小・中学校へ週1～5日、幼稚園へ月1回、外国人指導助手（ALT）を配置し、主に授業を通して異文化や外国語に触れることを体験し、コミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育成している。また、全小学校に英語教育コーディネーターを配置し、外国語活動及び外国語科の充実を図っている。また、イングリッシュアカデミーホップ・ステップ（小学校3～6年生対象）・ジャンプ（中学校2・3年生対象）を開催し、英語コミュニケーション能力の向上や異文化理解を深め、国際化に対応できる人材の育成を図っている。

このように、市全体で外国語教育の充実図ってきたところである。

現行学習指導要領の下においても、全学年の外国語教育の量と質を確保し、中学校へのスムーズな接続やさらなる授業改善に努めていくため、1、2年生の「外国語活動」を実施する。

(2) 本校の取組から

本校では、学校教育目標の「自らの可能性に挑戦する活力あふれる木下っ子の育成」を図る中で、「外国語活動」「外国語科」においても、市の取組を踏まえ、6年間の系統性を踏まえた外国語教育に取り組むとともに、英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や聞く・話す能力の育成に力を入れてきたところである。特に、低・中学年では、児童が日常的に英語に慣れ親しむことができるよう、（イラストや絵本等の学習教材の充実を図るとともに、外国語指導助手（ALT）のネイティブな発音を聞く）ことができる環境を整えた。また、高学年では、ICT教材も積極的に活用し、英語を使った児童同士のやりとりや外国語指導助手（ALT）等

とのやりとりを通して、自分の思いを伝えることや相手の思いを理解することの喜びを感じる) ことができるよう、学校全体で授業改善に取り組んできた。その成果として、本校児童 6 年生の約 67% が「外国語科の授業が好き・どちらかというが好き」と回答している。

これらの取組を継続・発展させることにより、児童の聞く・話す能力をより高め、英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成するため、特別な教育課程による低学年からの英語教育を実施する。

3 特別の教育課程を実施するにあたっての配慮事項

- ・生活科の削減分については、年間指導計画を見直し、生活科の目標を達成できるようにする。
- ・市教委作成の指導計画を活用し、1、2 年生の児童の発達段階や 3、4 年生の「外国語活動」への接続、6 年間の系統性を踏まえた活動となるようにする。
- ・全ての授業を担当等と外国語指導助手（ALT）・英語教育コーディネーターとのチームティーチングで行い、ネイティブの発音に繰り返し触れることができるようにする。
- ・英語を取り入れた校内環境整備や外国語指導助手（ALT）を活用した授業づくりに努め、児童が英語に慣れ親しめるような環境づくりを学校全体で計画的に行う。
- ・特別の教育課程について、保護者や地域住民、学校関係者への周知を行い、理解を得る。